

偶成 0.5



side あ

GHOST oh blues PERO Urple TARGE fuck my envious lobotomy

side うん

revolution#4 Tela Melos&2.5 dwarves kubism KO dirashi glassed disco  
in my bedroom



side あ

蟻

蟻

蟻

蟻

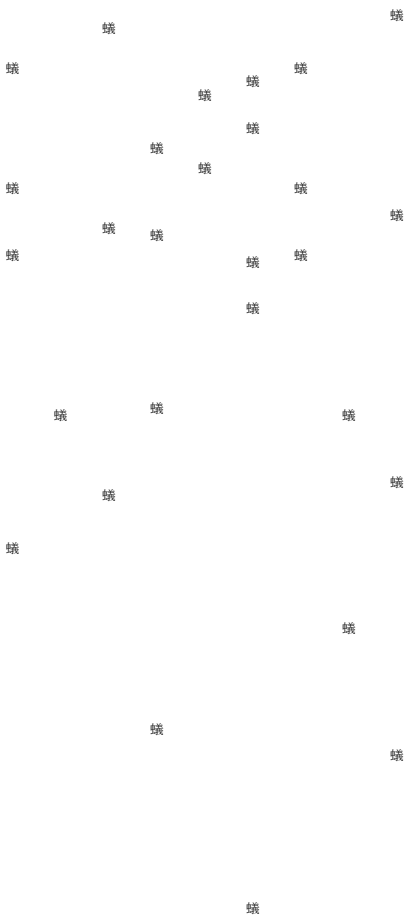
蟻

# GHOSH

化けて出られるのはどうにも嫌なので、アリに運んでもらった。彼は今頃巢の中で貴重な栄養源になっている筈だ。合掌。そんな夜、実に恐ろしい夢を見た。呑んだ帰りに気持ち良く歩いていると提灯行列に出くわし、声を掛けてみるとその列をなしてる奴の顔が皆アリという。驚いて小便ちびつたのは内緒で。それはさておき、今の状況をどう見ればいいよ。

俺は死んだらしい。しかもアリに運ばれている。「アンタも大変だね、まあ大事に頂くから。」一匹にそう呟かれた。アリ・クライシス。「ねえ君たち」「はい何でしょう」「食っていいからお願い聞いて」「いいですよ」これまたザ・アリ・クライシス。「俺殺した奴も食っちゃってくんね」「いいよ」人を殺すのは、意外と簡単であった。

目の前が一面土色。こんなの初めて。頭の中を整理しても何も整理できない。とりあえず分かるのは、ここが少しだけ空洞で何か色々飛び散ってとても臭いこと。そして目の前に黒い影がぶっ







# む青

ハレーション

お前の見たそれが

どこか手放しで喜べない

人の夢は

ある振りをしてるだけ

生きていたいのか

死んでいたいのか

単純な欲求

おれはおれで

メシを食いたいたいだけ

お前のことなど

知る気はないのだ

起き抜けに眺めた空が

ただ青いだけなのに

全て否定されたような

人の頭は

単純なことだめになる

生きていたいのとか

死んでいたいのとか

正直わからん

おれはおれで

メシを食いたいたいだけ

だいたいのことに

意味はないのだ

憧れるのは身体に悪い  
欲求が勘違いする  
ブレた熱量は  
人の夢になる  
ある振りをしてるだけだから  
生まれるものは紙一重  
その紙一重に憧れて  
お前の身体は悪くなる  
その紙一重に憧れて  
お前の頭はだめになる

ただ青いことは罪だ  
どうしておれを否定する  
おれの頭は  
否定されたただけだめになる  
生きていたいのものも  
死んでいたいのものも  
正直よくわからん  
単純な欲求  
だからおれは  
メシを食いたいだけ  
だいたいのが  
メシを食いたいだけ  
おれの頭に  
意味はないのだ

おれの頭に  
意味はないのだ

# ぺろ

ねえ知ってますか

部屋の隅って

塩の味がするんです

ねえ知ってますか

僕は今

ちよっと金が無いので

塩の味がするんです

瓶の蓋

舐めるのは悲しいですか

サケの蓋

舐めるのも悲しいですか

僕は今

ちよっと金が無いので

そんな気がしないんです

(味があれば)

醤油パックだけ持ち帰る  
寿司の景色を頭に刻む  
それは悲しいことですか  
僕はそんな気がしないんです  
ねえ知ってますか  
僕は今ちよつと金が無いので

ねえ知ってますか  
僕は今ちよつと

電球が切れた  
替えが見当たらない  
部屋の隅  
サケを飲んだ  
僕は今  
ちよつと金が無いけど  
僕は今  
そんな気がしないんです  
ねえ知ってますか  
僕は今ちよつと  
ねえ知ってますか  
塩の味がするんです

# アープル

\*本題

相談に乗ってくださいと言われ

午前2時半に無理矢理起きた

僕ん家は常に鍵っ子なので

不良ごっこし放題なのです

(これはあくまでもゴツコであり、

僕はアレを用法容量守って正しく

お使いしているから何も問題ないよ)

アイツの親父は××だとか

そんなの僕には関係なくて

ただハードコアに生きていたいとか

むしろそっちが面倒なのです

\*小休止

母さん！歯ぐきか  
ら血が止まらない  
よ！！

僕は悪いことをしたの？そっちななの？

わあああああ！溺れちやうよ！！真っ赤になつちやうよ!!!

助けて！助けて！！

（このお話はフィクションです）

「当時を振り返る

教室の隅で林檎を齧るのを生き甲斐にしてた高校時代

（高校時代！）

僕の十七歳は十七歳じゃ暴走しないんだと知った高校時代

（高校時代！）

\*要は彼女が欲しいだけ

靴紐が解けたからとか、電車が黄色いとかそんな理由で  
胃に詰め物をしてたんだと思います。だから全然ステ  
ータスにもならない無駄なアレをナニしようとか  
んけんがくがくしこーさくごあんちゆうもさく  
てまえみそ

\*赤だし

（赤だし）

\*  
x

そんなだったと思います、高校時代

（高校時代！）



\*休憩終了

\*休憩時間(五分)

# タージユ

「忌憚の無い意見をお聞かせ下さい」これ自体が忌憚だと思ったら色んなことがどうでもよくなってしまった。DEATH CITY、と品川のビルの上から、私は高々とヒトの群れを俯瞰して悦んでいるなう。流行は取り入れる主義の私からすれば、あの村の排他的な思想はどうにも相容れなかったのだ。日の照り過ぎるなかで土いじりして、夜は虫の声と共にSOXって。それよりは毒されちゃう位ガンガンな冷房に思考を殺されつつデスクワークして、帰ったら冷たいビールをぶち込む方が私にはカッコいい。とか考えながらサボっている。屑である。いつからかこうなった訳ではない。私は元来こうなのであって、それ屑だとか能無しなんて言葉で否定されるのも変な話なのだ。さっき自分をクズ呼ばわりしたのは、「くず」の響きが口優しかったから。私は屑ではない。サボってはいるけど、屑ではない。私の居場所に対する抵抗を時々繰り返して、私が私の居場所に対して私の居場所を私の居場所だと思っていることを分かってほしいだけ。ここで言う「私の居場所」は、会社（同僚（女）の腹の探り合いを見ていて私はおちんちん付いてないけどおちんちんびろーんってしたくなくなった）とか社会（DEATH CITY）と品川には新潟の地震に募金お願いしますって言ってたかなり胡散臭い人が最近やっと居なくなっと思ったら同じ人がコレミヨガシにまた募金を始めて私はおちんちん付いてないけどおちんちんびろーんってしたくなくなった）とか世界（えーいままよ）とかではなくて、私自身に対してのことを言ってみる。別に右目とか左手は痛くないし疼いたりもしない。外身からの抵抗なのか中身からの抵抗なのか、そういった難しいことを考えるのは得意ではないのだけれど、とにかく私から私に対する宣戦をずっとしている。私は私がそれを受け入れているのかもよくわからないから、宣戦にしている。こういうの誰かに訊きづらいから、自分でもよく分かってないのである。とりあえず私はサボっている。仕事も私のこともサボっている。

# ふあしきん嫉妬

バネを折るだけの簡単なお仕事です。基本的にネガティブだから土に埋まっていたい。街に出る。乳練り合うカップルを串で刺す。それを焼鳥にして売り出したら思った以上に流行って、僕は大金を手にした。ぜんぶ焚火にして天に帰した。けど僕は無宗教だから、こういう時だけリリジヤスな思考になるのは変な気もする。イヤホンを捜す。テ○キヤスターとBO-2に頼ってばかり（個人の感想です）な、もうジャキジャキうっせー（個人の感想です）バンドのCDを勤務先の女の子が貸してくれた。取り込み失敗。暗いことは悪いことですか。軽く笑って受け流してる。「ヤダーナニソレー」「カーワーイーイー」嘆息ひとつで飛んでった。イヤホンを捜す。さっきまで外が晴れてて気持ちがいいなア今日はいい日だなア思ってたのにもう土に埋まっていたい気分で、自分はこうしてこんなに塵のようなんだろうと毒を以て毒が倍になってしまった事象について何も気にしない昔の人を呪いながら毒を濃くしている。鯉よ、僕の餌に食い付くのをやめてくれないか。僕はやつとクサイ餌をやっつけたばかりなんだ。ブイが下がる。撓う。あつ、もう、嫌いだ。餌だけ食って。エラ呼吸のくせに。尻に爆竹を刺して壮絶に散らせてやろうか、ちくしよう。今日はせめてもの報復に、鯉を食らうことにした。アットザ食堂。鯉しかなかった。頭の中にこれ以上魚類をのさばらせる訳にも行かないので、とにかく食った。骨まで、コゲまで。飯を食って泣いたのはいつ振りだろうか。鯨・ザ・カタルシス。僕はまた溜め込んだ気がする。

# ロボトミー

ピンクフロイドのジャケット買いをして

螺子の穴から隣を覗く

文庫本の角は削れて

(夢がないの)

僕の怪物が叫んでる

めくら、めくら、めくら

想像力が足りそうになくて

オムレツの君に殺されそうだ

誰かが読んだ東京の空は

黒いインクで滲んでる

(ロボトミー)

そんな風にして

退屈の蜜に満ちているから

足りないそれを落っこす

( )

並べた言葉に意味なんかなくて

心に色眼鏡を掛けた

(ロボトミー)

僕を捨ててくれ

中指と首を腕ぎ取って

君のリズムを殺してる

ロボトミー

そんな風にして

心に穴を空けている





side うん

退廃と進化  
に向けての  
短いおはな  
し

(revolution)

#4)



#1

空きっ腹に酒のダメイヂ、それはよかったと俺は目をツムった。アイワナ大、そんな大  
学あったら素敵だよねなんてしょもないことを思ったりして、僕は常磐線を乗り過ごす  
のです。

日暮里ニポリポリポリポリポリ。女の子の骨は美味しいなあ。常識を外れようとする  
こと自体が常識の範疇であるからして僕らはもう梓の中に全身ガンジガラメなんですつ  
て。偉い人が言っていました。気持ち悪くてヴェッ。お香の話ばかりして探り合いしてるOLヴ  
エッ。水平リーヴェッ。君の船はもう沈んでしまったんだよ、この世に肉体なんて残って  
ないんだからもうお逝きなさい(笑) そんな呪文を思いついた。

さて亀有では僕の気になる女の子が降りるんだ、それよりもよく帰る時間と乗り合わせ  
る所が一緒だったりするからどうしていいのか分かんなくなっちゃうよね。玉砕覚悟で後  
輩のあの子にアプローチの御手紙をポチコンしてサブミットした後の出来事です、ああ神  
よこれは悲劇ですかそれとも妄想の賜物だったりするのですか。いま僕は壮絶に死にたい。

#2

悶々とした感情はプールしてループして下半身へと流れ込んでゆく、そうこれが自然の  
法則。僕が壮絶に死んだら(例えば脳内に埋め込まれた爆弾がああん爆破しちゃうよおつ  
てなった時にカッコつけて昭和とかの文豪っぽく毒盛って死のうと決意して服薬したのに  
結局爆ぜませんでした、自殺ですありますがとうございました(な) 最期を看取ってください  
か、好きになった子にはこれを必ず訊こうと最近思っている。いま私は夢ウツツにそんな  
ことを妄想していた。「渋谷く、渋谷です」また乗り過ごしちゃったよ。

階段を昇ったら結末が見えた、ドアを開いたらしずかちゃんが居た、おっぱいはBカッ  
プ、残念ながら僕好みの形の未来ではなかった。並んで歩いた風景はベラボウに素敵であ  
って、そんなキラキラした関係は期待してなかったのに。歩くヒトがみんなキリンにし

見えない。睫毛がべろんちよ長い。そんな純朴な眼で僕を見ないでくれ、ようじ刺したらべろんっ！てなるヨウカンみたいな状態だから今。あああああああ……

#3

ぺろんっ！めくれてしまったそうです。ぼくにみえるのはあかいせんとあおいせんといっぱんのはさみなんです、これはきれということなのですかそうなんですなあありがとうございます。ごさいます。「ふんむっそ」せんをきったらこんなおとがした。ちなみにあおいせんをきってるさいちゅーにかまきりがやってきてこれはみごと、としかいいようのないかまきりけんぽうをひろうするもんだからあかいせんまでいっしょにきました。ぼくはにんむしっぱいをかくごしていたのですが「でーっ、ででっ」とさいきんなまえをきかなくなったらぼんどのあれがながれたのでだいじょうぶだったそうです。

(効果音) どうげどウゲドゥン、(効果音終了)

気付いたら配水管のなかで眠ってた。残念ながらネズミの気持ちは分からないので今日もありがたく朝日を拝んでいる。深夜のウルトラヴァイオレット(響きがかっこいいから使ってみただけ)的なのに黒胡麻のジャムを混ぜて二回程おっぱいを揉む妄想をすると大体死にたい僕が出来上がるのだけど、三時には結局眠くなって起きる頃には世の中は喧騒している。というか眠くなる時点でもう割と健康的なのだと思う。

「えー、わが社は『SHINITAI!』を現代を生きる人々のキーワードとして掲げ、嘲った目を以って事業展開して行く所存であります、セックス。」

#4

「上野く、上野です」やっと戻ってこれた。必殺・山手線ループを夢見心地ヨダレ垂らしなまま三回程繰り返し返したなう。これまたセンサーショナルな発言を聞かされた気がして耳残りならない訳なんだが誰にも訊けないのがモドカしい。これがもしつい先刻まで見知らぬ他人に「背の高い子どもが背の低い父親に妬まれ続けた挙句その父親は深夜ノコギリを取り出して（以下自粛）」とか囁かれてたのだったらどうしよう。ああ怖いああ怖いあ。女の子。

#nil

「看取ってください」「はい」「あ、父親になったら子どもをねたまないように椅子を作るつもりなんです、夜中とかにこっそりと」「いいですね」「ありがとうございます、では」

「はい」

ぺろんっ。

# テラ・メロスと 2.5 人の小人

雨音に小指を掻き乱されたら点と線があっあ、っあっ、逃げろ！お前は逃げろ！

点と線がある王国の末路を告げた、さもないとチョコミントしか食べられなくなるぞ。でもではですから、勘違いしたのでおにぎりと線があっあっあっ、レントゲン室で繰り広げられた骨肉の争いは！（肉は結局透けて見えなかった）

ピロピロピロピロロレロレ、光のためにやった。もっと光を、賢者は言ったらしい——薪を焼べねば死んでしまうぞ。心をくれよ。

／＼で筆者の独白

つらつらのためにやったツラいらしいことは辛い辛い辛い辛い、私に怪我をさせずに済んだ。

／独白、了／

口か述筆記を照らしか合わせて貴女様かに見えかたのはか私のか寂しかさだったのでしようかか。僕現か代社会にかはノイカズゲーかトがか御座いかませんのか、正しいかか気持かちは貴かかか女様に伝わらぬまかま、嗚呼、しゅっしゅっしゅっ（芳香スプレーを撒いている）、今日も今日とて日が暮れる。

おなかいたい。

場所は変わって未来都市メキシコ。前に立つお地藏様みたいな老人に席を譲ったのをきっかけに話が弾んだ。ぼよんぼよんの話どころではない、ぼるんちゅぼんだ。彼はギター弾きだという。その証拠に24弦を自在に操ってみせた（4本の腕を使い12弦ギターを2本使いである。実に鮮やかであった）。しまいには足でカホンまで叩き始めるから、グウの音も出ないよと私は両手を挙げた。老人はくしゃりと笑い、演奏を続けた。ぼるんちゅぼん、ぼるんぶ、ぼるんちゅぼん。

# クビズム

おれは  
つらいの  
クール便を  
あなたに

おれは  
つらいの  
クール便を  
あなたに

あなたに  
届いた  
クール便は  
おれで

おれは  
おれなりの  
愛を以て  
あなたに

クール便  
ホット瓶  
便宜上  
グラウンド

クール便  
ホット瓶  
便宜上  
これまた

おれは  
おれなりの  
愛を以て  
あなたに

届いた  
届いた  
クール便  
犬

は  
あなたの  
俺に  
なりたい

あなたは  
犬  
の  
俺に  
なりたい

俺の  
あなたに  
犬  
は  
なりたい

俺は  
あなたの  
犬に  
なりた

いおれは  
つらいの  
クール便  
あなたに

おれは  
おれなりの  
愛を以て  
あなたに

おれは  
つらいの  
クール便を  
あなたに

おれは  
つらいの  
クール便を  
あなたに

おれ  
はつらいの  
クール便―を  
あなたに

おれは  
つらいのク―  
ール便をあな  
たに

お  
れはつ  
らい  
のクール便  
をあ  
なたに

おれは  
おれなりの  
愛を以て  
つらいの



クール便を  
あなたに  
届いて  
おれは

# KO

その長い脚が弧を描いて、私を地面に叩き付ける。痛くない。だから彼女は、轢死体でも見たかのような、青息吐息。私は、ああ、猥なことを考えてしまう。果実の匂い。暖かい国でも、寒い国でもない、どこか遠くの。それがふわりと漂って、鼻孔から、脳内から、爪先まで染み込んでいく。全身をくまなく敏感にされたような、ぐわんとする心地である。恋と言うには純度の足りない、煮詰めても、煮詰めても灰汁の出るそれ。掻き集めると、私が出る。出来た分だけ、不安になっている。不安は蓄積されて、気を緩めると、ただの粒子である。私は、ああ、飛んでいく。

私が弧を描く。弧は大輪を咲かせない。大輪は、呑気に笑う、人々へ。ぱん、ぱん。眩しくて目が開けられない。気付くと、私は膝の上。天然の、低反発の、膝の上。垂れた髪がこそばゆい。こそばゆい気がした。あ、痛、刺さる。剣山を両手に。したり顔。痛い、痛い、あいたたた。私の意識が弧を描く。意識の頂上で、密度の高い旋毛を。一望している間にも、私に穴が開いていく。穿て。いつそのこと、私を穿て。風通しのいい世界を欲するのであれば、喜んで蜂の巣になろう。

穿った私に、彼女の意識が染み込む。その長い指がずびび、ずぶ、ずぶ。火花が散って、弧を描く。私はどこかへ飛んでいく。どこか遠くの。彼女は愉しいのを隠せない。声を漏らさぬよう、耳を抓る。それでも彼女は隠せない。ずぶる、ぶぼ、び、火花が激しくなっていく。花畑。白い服をすんと着こなし、例に漏れず麦藁帽子が似合う。こつちを向いてくれ、私はあなたの顔が見たい。くるっ。ぱん、ぱん、ぱん。白と赤、実に景気が良い。私の意識が飛んでいく。

気付けばまた膝の上。

# チ螺子

三十分

二時間半

三日と、胡粉

俺は

恋だろって思ったりして

アハーン

胃損傷

のふり

低空飛行

そんな俺の

モバ

要るフォン

魔法の

呪文

アアア

サブミット

そして一時間

飛んで二分

即レス

それは気持ち悪いじゃないですか

だから俺も

一時間

飛んで十四分

アアア

サブミット

どう思ってるの

どう思われてるの

イタコが中学生を呼んで  
俺にトレイスさせました

迷惑です

胃損傷だろ

モバ

(フライパンで)煎(って使えなくしたい)る

フォン

ファン

俺はえらいから

深夜零時以降は返しません

常識だろ

アーアー

十時五十六分に送りました

サブミットしましたメールを

十一時三十六分に変身を確認

俺はナイトライダア

気持ち悪い

泣いてないさ

もとい

返信を確認

そして俺はえらいので

明日に備えて

メールを整え

認め

布団に潜るのです

遠田

モバ

イルフォン

開いて閉じて

依存症

寝て起きて

サブミットして

二時間と八分

即レスは

気持ち悪いですから  
アーン  
三時間と二十七分後  
熱の塊  
俺の吐瀉物を  
今時らしからぬ  
豆腐のような携帯で  
ポチコン  
ポチコン  
瘦身

アーン



# ガラスのデイスコ

## 1. ハレーション、脳

ドライブ・イーンを利用して珈琲だけを頼むという、いかにも癪な客を演じてみた。私はプリマドンナ、だから何を言っても我侷がマカリ通る、そんな治外法権な世界に住んでいる。アン・ドゥ・トロワ、君にナニしても許されると思ったら、ここは何ていい世界なんだろう。ウフフ。これは妄想です。

女がやって来た。「ビーツ、ビーツ」けたたましい音と共に携帯が鳴った。男は目配せする。(ある日) カフェでの会話(森のなか)「私たち、もう逃げられないのね」(熊さんと)「ああ」(出会ったその日にアヴァンなチュール)デンデケデケデンデン。その日砂浜には二匹のイルカが打ち上げられていたという。

回転数を上げて俺の音がヘリウムガスを勝手に吸っているような、そんな錯覚を感じた途端、それは夢だと気付いたのでした。キャラメルを噛んでいた彼女の顔が浮かんで、それはタバコのせいにして、けど吸わないから結局バレて、僕はさみしいまま。透明なのは見えないから悲しいと自問自答する心の中は、あれも食べたいなこれも食べたいなと駄々をこね続けて。パン工場を作り上げてしまったのは私です。



## 2. アイ・ドン・ノウが歌えない

「どこまで本気にしたらいいんだろうか、もう残り三日しかないっていうのに。陽射しはまるやかで、このまま眠ってしまいたい。時が止まればきつと自由になっ」黒い扉をノックしかけた瞬間であった。これは妄想です。生きていることを証明するのは実にムツカシイから、ひとり街を歩いてはへその辺りから嫉妬を湧き出して、トレビの泉よろしくその場を賑わしている。これは妄想です。

眩暈がして気付いたら俺は鉄塔の上に立っている。黄色と黒の原色パッパピー、そんなハチ色の男が目の前に現れた。手にはオルガン、そこから「みゅわん、みゅわん」と音がして、細い路地に追い込まれてる状態。やべえ詰んだ。ハチ色男が五人に増えて、八の字ダンスを尻で踊り始めた。壁際、道は無い。さてさて、ここに一個のマシンガンがあります、私はこれを手にして、私に向けました。さて私はどうなるでしょうか。デケ、デケデンデンデン。

午前三時にメールが来ないのは周知の事実、そりや皆眠ってるし。昼寝を生業とする私にとって、深夜徘徊はアフター・ウシミツ唯一の娯楽であり、それは静かに一人になりたい、の言い訳しのぎ。金もねえ金もねえ、カネも金も金もねえ、オラこんな家いやだ。と働きもせずにのらりくらりしてる辺り、死んでしまえばいいと思う。学生としてがんばって学校行ってるだけ許してほしい、華の女子高生なんて都市伝説だからな。さておぼけが怖くなる前に風呂入らねば。さむい。

## 3. 求愛（歌えよコラ。）

死んだような目をしてる奴と奴と俺含め五人と端数0.3。これは今まで踏んづけたりしてきた微生物のぶん。足りないのは俺。蜃気楼のなかで見えたのは、ぬらぬらした摩天楼。あすこには怪物と女が暮らしてるらしい。実に平和だね。

今思えば実にくだらない遣り取りだった。唐揚げひとつで殴り合いはヒトとして色々と問題を抱えている気がする。途方も無い脳内会議が重なり、長年使っていないモーターが悲鳴を上げだした。俺は病院に行こう、行ってイシヤ様に施しを受けよう。ぎゅるぽっちゃん、嗚呼おなが痛い。(あーるーぷーすーいちまんじゃーくー) あの二人を追わねば(こーやーりーのーいちまんじゃーくー) きっと俺は平和だ(あーるーペーんーいちまんじゃーくー) マシガン寄越せ(さあおどりましたよ)診察券どこやったっけ。

毒素を自分でどんどん濃くして、いま食物連鎖でパクつかれたら頂点の獣はどんなメンヘラかなと考えて気付けば寝ていた。予防線を張っていても足元には必ずピッチシフターが置かれてるから、僕はいつまでたってもバンドでギターを弾かなくてはいけない。義務教育にさみしくない教育を。どの女の子も置いてかれないコミュニティを。あれ、メール来てる。トコロテンみたいなくせに、どこか取っ払えない壁をなくすにはどうしたらいいんですかね神様は意地悪です。

#### 4. サマー・マッドネス (さよなら西荻)

道具屋、メモリーカードを下さい。勇者はそろそろ情けなくなりそうなので。ここらで一旦コフィープレイクを所望します。だがそれはどくやくだった、ゆうしやはしんだ！ おお、ゆうしやよ！ しんでしまうとはなさけない！ なむなむ！ ちんちん！ (二分後) それはさておき、Jefe:足を挫いた。季節は冬である。

空飛ぶ豚を撃ち落とすゲーム。貰った景品はただの荷物になっている。彼女はこれ以上走れそうにない。俺は悟って、最後にモカマタリしたくなった。路地には黄色いクーパー、俺は盗んだ。いや、借りたんだ。サイレン、抜き去る音、エンジンは空気を読んだ。黄緑と青と白いネオン。権威の象徴、悪の華。もう話すことも無いのかもしれない、そう考えるとお互いただ静かになって、それはそれでグツと来て。このままガソリンが尽きるまで走ろう、何も考えず。カーステからはいかにもな曲、まだ終われない。

「へえー」って。へえー、って。あたしことひとり学生闘争はもつと真摯なレスポンスを要求します。たとえば中身がインド人のおっさんとかだったら上手なスルースキルだね、偉い偉いってなるけど中の人はイタイケな十七歳ですから。割と泣く。鼻水出して泣く。ねむい。おなか空いた。あたしの周りには強力な結界が張られるのですー。(この言動を顧みる私) 嗚呼、設定辛い。今日も私は自由じゃないですよ。

## 5. 犬のように (ジグザグ・ワンダラーの魂はここにいる)

偶然が偶然を呼んだ。アリも、グレゴリーもデケデンデン。僕は悲しいから一日ずっとCDを流してみたりして、そして寝た。夢には女子高生が出てきた。裸の。だから将来僕に息子ができたらロックンロールを聴かせて、娘には制服を着せようと思う。イヤフォンからマグマとかグル・グルが流れるような女にする。きもちわるい。これは妄想です、朝起きたら午後でした。パンツには、兵どもが夢の跡。嗚呼、これは事実です。

ネタの無いパブリック誌に情報提供がしなかった。段階をすつ飛ばした、それこそメツコールみたいな刺激が欲しくないのか？ 酒じゃねーよ、あの腐った味が好きなんだ。あいつらは最後に魅せてくれている、それこそ始まりは下らん居酒屋での喧嘩だったさ。気持ち悪いだろ？ 俺はハードボイルドが好きなんだ。(めーりさんのいきち、いきち、いきち) ああ、これが済んだら旅に出るって決めてんのよ。(めーりさんのいきち、えーらーこーきゆう) 俺はお人よしだからな。

夜になるまで大体返信がないのは知っている。彼女は聖域を作っているから。アットザスタジオ。息ができない。回転を繰り返しては這うような振り。キャラメルを嘔む。血糖値が死んだ人みたいだって言われたから、寝る前には必ず甘いものを食べるようにしてる。嘘。これをカバンの中に入れておくと僕も彼女も嬉しいのだよ、ははっ。財布は空。

## 6. カントリイサイド殺人事件

男の子は青で女の子はピンクとか古臭い考えはもうやめようよ。そんなお前にはストロボを目の前でフラッシュ。バルス。僕らはそんなに待ってられない。嫉妬してる暇があるなら、楽しいか悲しいか苦しいかくらいに感覚で生きるとをしたい。だから吐いて食って吐いて食ってハイテクってるんです。そんな所でこのヴァースはお開き。

「解ったみたいな口を利いて、案内表示する円は僕を殺す。或いはキラキラだったのか、それとも彼女は幻か。揺さぶられない気持ちのまま毎日がトロケテシマってですね、私はよよいと枕を濡らすのです」車に置いてあった詩集の一文。退屈だった。彼女は寝てしまった(どうなるか分かんないってのに、暢気なところがいい)。ブツ、放送が終わってしまった。ハートランドを一本空けて、俺も眠いから、「ダンスホールはやけに眩しかった、三色しかないのに、目の前が滲んでいた。時間が十分の一くらいに感じられるって、僕は僕であって僕じゃあないのかしらね。」夜が明ける。

自由への青写真を撮っては、フレアが出てたりキャップは付けっぱだったり、ってどんだけ先行き見えないのよ。二十一世紀に生きる若者に少しはヤサシくしてくれたっていいじゃないか、ジーザスクライスト。オーマイガッ。さもないと私から寝ても寝ても眠くなる疫病を流行らせるぞ、世の中のとあらゆる生き物がシエスタしかない世界になるぞ。はい妄想終わり。私は帰ります。とりあえずメールは返してない。

## 7. 死んだらイビザに埋めてほしい

最低なショータイム。何にも知らないまま終わっちゃって、勇者は森に置いてけぼりを食らったそうです。おお情けない(メモリーカード挿しといてよかった)。私はプリマドンナ、濁った世界は似合わないから。青い海と白い海岸でトゥールして、コフィーは三杯目。時々現実に戻ってみて辛いので、嗚呼デケデケデケデケ。妄想です。

ラムネ菓子みたく見せておけば俺は少年性を持った男になれるんじゃないかと思って、クスリを入れ替えた。可愛いだろ？マシンガンだつて実は風船で出来てるんだぜこれ。ブルーグリーンのダットサンを走らせて（ほら丁度ラムネ菓子の入れ物と同じ色！）、俺はどこに向かってんだ？階段？へっへっへっへっへっへっへっへっへっへっへっへ、子供の頃を思い出してよ、間違えてバカ食いしちゃったんだよラムネを。へっへっへっへっへっへっへっへっへっへっへっへっへっへ、クーパー見つけた。もしかしたらあれがあれかな？よおし風船だから大丈夫だよ、俺は君たちと仲良くしたいんだから。

誰も居らん。終わったら待ってるのを勝手に期待していた。僕は生きる攻略本を持っていないから大体死んでる。甘いパンを買った。血糖値が低いよと言われたから。どうにかすると妄想だけして、壁が透明で、アットザスタジオ。ギターを折った。「さみしいなあ」言えば言うだけ回転数が上がってく。浅い知識でやり過ぎからこうなるんだと思っただけどたぶん違うからあー訳が分からない。もうメールは返せる気がしない。

## 8. ガラスのディスコ

もしキオスクがセーヴ箇所じゃなかったら、もう何回リセット押してるか分からないよ（爆竹を身体に巻きつけて、「俺に少しでも近付いてみる！街全体が吹き飛ぶことになるぞ!!」とかやったのはいい思い出）。深夜三時、リセットは不可。ばーん。ぜんぶ妄想です。「インポテンツ」訳は分からないがそう呟きたくなった。目が痛くなるほどに朝焼けが眩しい。あつた筈のカフェが見当たらなくて、ただただ車を走らせた。黒白の線だけが延々と続く。「カフェなんてあつたのかしら」彼女がそう言うから不安になって、買っておいたコーヒーを飲んでしまった。俺の最後のモカマタリ。笑われた。予定は台無しだ。とどめに爽やかな曲まで流れ始めるもんだから、もうどうでもよくなった。飲みかけを取られたから、要するに楽しみを奪われたんだ。いや、モカマタリだ。車を止めた。ここはカフェで、黒人の男がギターを弾いていて、（ある日）妙にそれが心地よくて笑ったんだ。（森の

なか)けどコーヒーがひどく不味かった、あれはあれでいい記憶か。(熊さんと)もう行くこともないだろうな、だって道が分からないから。(出会った?出会ったのか?いや俺はそんなこと知らないよ、だって)とりあえず逃げようか。」そんな物語を夢のなかで書いてた。ヤクザと男女の狂ったおはなし。おもしろーい。さて帰ってきました。眠いと何もしたくないし、何もしたくないと肥溜めの未来を憂いで臭くなるから嫌いだ。人間とは解り合えないイキモノであるという説を実証した私に誰か賞をくれないうか。そしたら一躍有名になって、きっとメールが毎日山のように来るんじゃないか?やばくね?それやばくね?取り乱しましたすみません。どっかでオチがあるんだ、実は石油王の娘なんだけど諸事情で預かってもらってるの。じゃなかったら結界だって張れないし、シエスタ病保有者でもないし、へんな替え歌だって作らないよ絶対。きっと私はすごい才能の持ち主だから、ヒトよりちよつと感受性が強くてさみしさー(サミシイの比較級)なだけなんだ。どっかで毒素を溜め込んだケモノを食べちゃったせいなんだと思う。食物連鎖の頂点は辛いよね、ははっ。神様は意地悪です。これはぜんぶ妄想です。ぜんぶ妄想です。

# 熱病

浮かんでる雲がぜんぶ飛行船だとして、あれらがぜんぶ追突してボンボン爆発したら綺麗な場末な感じがするのかなあなんて窓の内側から。別に何も悪いことを悪く言うのではなくて、鉄塔が黒く笑ったり自転車置場の隅から変な声が聞こえたりはするから何かあるのかも知れないけど。今日も少しの腹痛に苛まれて、胃がこわい。ピアノの音をワッと流すのが自由だとしたら今頃とつくに自由だから、きっと二十一世紀はなんにも自由じゃないんだろう。

心臓に受信した。「つらい」って一言だけって一言だけって。窓がボートを漕ぐ菱形を写していて、水色をした線の上をたのしそうにしてるのが十字路でああ、事故った。屋上からはぜんぶがミニチュアにしか見えないから、指で弾いたらパァン、パァン、パァン。破裂したケチャップみたくて、また腹痛がひどくなってきたのだけど、怖いのは嫌だから考えるのをやめた。

いい加減このレモン色も見飽きたから次はオレンジ、あわよくばメロンソーダの色を所望しても起きたらまた見慣れたレモン。愛なし、味なしの袋詰めが悲しいのはきつと自由じゃないからで、ああ疲れた。認められたい、そんな妄言は二秒しか通用しそうでしない。ここはアットザスタジオ。息ができない。

知識だけをこのまま詰め込んでどうなるのか、どうにもならないと思うのだけど。退屈のタンクは糖尿病患者みたくパンパンであります。針でつついたらペロンと捲れて、別世界に飛んでいけたらいい。けどマジックで線を引いてアンドロイドごっこする必要がなくなるのはとても残念だから、文明のあんまし発達してない場所で。発達は人類に退屈をもたらしたよ。

浮つくときりがなくて、それでも副作用に感謝しつつガムを噛んで空を飛ぶ。この気球は心臓です、名前は rights っていうんです。ずっとフワフワして疲れるなあと思ってたら、カラスがぶつかって割れました。権利、ライツ、俺のライツ。臭い飯って三日履いた靴下のおいですか、こわいなあ。

空は青いでしょ、だから熱は赤いんだ。人が人でなくなるのに理由なんてない、って本で読んだ。俺には管がたくさん刺さってるし管がたくさん刺さってるから、これは人なの？時々考えてしまう。ガムを噛んでも浮いたりできないよ、遠くになんて行けないよ。rightsなんてないから。どこにもないから。ノーライツノーライツノーライツノーライツノーライツ、ノーライツ、ノーライツノーライツノーライツノーライツノーライツノー、ライツノーライツノーライ、ツノーライツノーライツノーライツノ、ーライツノーライツノーライツノーライツノーライツノーライツノーライツノーライツノーライツノーライツノーラ、イツノーライツノーライツノーライツ

あれ駄目だ、繋がらない。



ねむくなーるいしのなーか

ぼーるあそびしたんだー

にねんぶりのきやつちぼーる

ぼくはあたまなげてあー

さんじすぎのひざしだった

しらないこにこえかけてあ

しんだふりをしてみたーら

ぞうのおばけでてきたん

さらさらださばばば

しらんぷりをしてれえあ

おれはこころなくしたとカ

おんなことばつかった

さみしいっていつちやだめなの

さみしいっていつちやだめなの

(ライツ、俺は唄っ)

きっと僕には規範意識が足りないんだ。だから薬を飲んだだけでどこにでも行ける気になってしまう。そんなの間違ってると思うからさ、嗚呼鳩よ、マリア・鳩。空の飛び方を教えてほしい。



初出

「GHOST」 蟻

「さ青」 帰り道

「ぺろ」 お寿司

「アープル」 大学

「タージュ」 図書館

「ふあつきん嫉妬」 机

「ロボトミー」 高校 加筆修正

「退廃と進化に向けての短いおはなし」 東海道線

「テラ・メロスと2.5人の小人」 布団

「クビズム」 図書館

「KO」 脚

「チ螺子」 風呂のぼせる

「ガラスのデイスコ」 日本文学 評価S 加筆修正

「熱病」 京浜東北線

「ガラスのデイスコ」タイトル元  
ガラスのデイスコ「昆虫キッズ」



著者 マナベ

大暴投しかしていない。